

2022年度 事業報告書

2022年4月1日から2023年3月31日まで

特定非営利活動法人 Colorbath

1 事業の成果

2022年度は、2021年度に引き続き、独立行政法人国際協力機構（JICA）から採択を受けた「マラウイ農村部におけるサステナブルな衛生環境の向上支援事業（草の根支援型）」を実施した。調査によって確認した現状をもとに、病院やヘルスセンターでスタッフに対する衛生研修を行い、衛生環境整備の大切さを理解してもらうことができた。さらに、2022年度は、味の素ファンデーションから採択を受けた「妊産婦健診と離乳食の強化を通じた家族全体の栄養改善プロジェクト」も開始した。本年度は、主にヘルスセンターでの調査を行うことで、妊産婦の栄養状態や出産環境を把握することができた。

Web交流事業（以後：DOTS）では、山口県内の行政とも連携し、山口県、マラウイ・ムジンバ県において公的な事業貢献を果たすことができた。また、DOTSの山口県内全域、また全国への普及を目指し、実際にDOTSを体験した先生（DOTSアンバサダー）が、他校の先生に経験を伝えるセミナーを実施し、新たにDOTSに取り組んでみたいという先生とのつながりを着実に増やすことができた。年度末には、これまでの約10年に及ぶDOTSの活動を評価していただき、西日本国際財団から山口・九州とアジアの架け橋となる団体に贈られるアジア貢献賞をいただいた。

コーヒー事業では、ネパールの農家さんへのサポートをより一層強固なものとするべく、クラウドファンディングを行い、コーヒーの栽培技術向上に向けた資金調達を行うことができた。また、2021年度に採択を受けたJICS NGO支援にも再度申請をし、2023年度のコーヒーの生産・販売強化事業に対しての採択をいただくことができた。

その他にも、ブログやSNS、音声メディアなど、多様なメディアを通じた広報活動やオンラインイベントにも注力し、2021年度よりも幅広い層の方々に情報を届けることができた。今年度は、大手民間企業や行政、現地パートナー企業との包括的な連携も進み、2023年度以降の事業拡大にも期待が持てている。日本に住む外国人や介護の特定技能実習生として来日するネパール人に対するサポートも継続的に実施できている。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名 (定款に記載した事業)	具体的な事業内容	(A)当該事業の実施日時 (B)当該事業の実施場所 (C)従事者の人数	(D)受益対象者の範囲 (E)人数	事業費の金額(単位：千円)
① 国際交流事業	◆山口県、長野県、徳島県の小・中学校にて、マラウイ・ネパールとつながるDOTSを実施。今後の普及に向けて、セミナーの実施や周南市教育委員会との協議も行った。	(A) 通年 (B) 山口県周南市富田中学校、山口県山口市立柚野木小学校、長野県諏訪市立城南小学校、	(D)周南市教育委員会、教職員、保護者、生徒、途上国に興味のある方 (E)計 550名	1,799千円

	◆ネパールの農村地域における雇用創出を目指したコーヒー事業を実施。今後の支援地域拡大を目指し、苗の配布を行った。ネパール国内での販路拡大に向けて現地パートナーと協同でカフェオープンを進めた。	徳島県上板町立高志小学校、他、山口県内の複数の小学校。 (C) 3名 (A)通年 (B)ネパール (C)3名	(D)農家 (E)400名	2,265千円
② 留学生受け入れ事業	◆来日前の特定技能実習生、ネパールで日本語を勉強している生徒に対して、オンラインでの日本語会話の授業を実施した。 ◆日本での就職を希望するネパール人のオンライン相談、面接サポートを実施した。	(A) 6～9月 (B) 滋賀県、山口県、福岡県、ネパール (C)2名 (A) 10～1月 (B) 福岡、ネパール (C)2名	(D)留学希望者、受け入れ教育機関 (E)60名	120千円 60千円
③ スポーツ交流事業	実施なし			

(2) その他の事業

事業名 (定款に記載した事業)	具体的な事業内容	(A)当該事業の実施日時 (B)当該事業の実施場所 (C)従事者の人数	事業費の金額 (単位：千円)
① 国際交流事業	◆マラウイ農村部における医療衛生環境の向上を目指し、現地病院、ヘルスセンターでの調査、現地保健省とも連携した衛生研修を実施した。太陽光でお湯を沸かすことのできるソーラーボイラーのデモンストレーションを実施し、いくつかの病院で利用を開始した。	(A) 通年 (B)マラウイ共和国、兵庫県姫路市 (C)3名	5,264千円

② スタディ プログラ ム事業	<p>◆NTT コム エンジニアリン グ(株)との連携による SDGs ア クションプログラムを実施。 研修やワークショップ、実際 にネパール、マラウイへの渡 航を伴うフィールドワークも 実施した。</p> <p>◆オンラインイベントを企画 実施し、全国の様々な方との 対話の場を設けた。</p>	<p>(A) 通年 (B) 東京都港区、マラウイ、ネパ ール (C) 3 名</p> <p>(A) 通年 (B) 全国及びネパール、マラウイ (C)4 名</p>	12,598 千円
-----------------------	--	---	-----------

(備考)

- 1 2は、(1)には特定非営利活動に係る事業、(2)にはその他の事業について区分を明らかにして記載する。
- 2 2(2)には、定款上「その他の事業」に関する事項を定めているものの、当該事業年度にその他の事業を実施しなかった場合、「実施しなかった」と記載する。

2022年度の事業報告書（詳細）

2022年4月1日から2023年3月31日まで

特定非営利活動法人 Colorbath

1 事業の成果

2022年度は、2021年度に引き続き、独立行政法人国際協力機構（JICA）から採択を受けた「マラウイ農村部におけるサステナブルな衛生環境の向上支援事業（草の根支援型）」を実施した。調査によって確認した現状をもとに、病院やヘルスセンターでスタッフに対する衛生研修を行い、衛生環境整備の大切さを理解してもらうことができた。さらに、2022年度は、味の素ファンデーションから採択を受けた「妊産婦健診と離乳食の強化を通じた家族全体の栄養改善プロジェクト」も開始した。本年度は、主にヘルスセンターでの調査を行うことで、妊産婦の栄養状態や出産環境を把握することができた。Web交流事業（以後：DOTS）では、2021年度に引き続き、国（文科省）のパイロット事業として山口県内の行政とも連携し、山口県、マラウイ・ムジンバ県において公的な事業貢献を果たすことができた。また、DOTSの山口県内全域、また全国への普及を目指し、実際にDOTSを体験した先生（DOTSアンバサダー）が、他校の先生に経験を伝えるセミナーを実施し、新たにDOTSに取り組んでみたいという先生とのつながりを着実に増やすことができた。年度末には、これまでの約10年に及ぶDOTSの活動を評価していただき、西日本国際財団から山口・九州とアジアの架け橋となる団体に贈られるアジア貢献賞をいただいた。

コーヒー事業では、ネパールの農家さんへのサポートをより一層強固なものとするべく、クラウドファンディングを行い、コーヒーの栽培技術向上に向けた資金調達を行うことができた。また、2021年度に採択を受けたJICS NGO支援にも再度申請をし、2023年度のコーヒーの生産・販売強化事業に対しての採択をいただくことができた。

その他にも、ブログやSNS、音声メディアなど、多様なメディアを通じた広報活動やオンラインイベントにも注力し、2021年度よりも幅広い層の方々に情報を届けることができた。今年度は、大手民間企業や行政、現地パートナー企業との包括的な連携も進み、2023年度以降の事業拡大にも期待が持っている。日本に住む外国人や介護の特定技能実習生として来日するネパール人に対するサポートも継続的に実施できている。

2 事業内容

(1) 国際交流事業

<1. オンライン交流プログラム DOTS >

■概要

ネパール・マラウイという未知なる国とのつながりを通して、みえる世界をひろげ、新たな一歩を後押しするプログラム。ICTを活用した国際交流に取り組もうとする学校や先生をサポートすることで、子どもたちに“世界とつながる原体験”を届ける。

■活動詳細

実施日程	詳細
5月16日	実施校：山口県山口市立柚野木小学校、マラウイ・ムジンバ県カプタ小学校 参加生徒数：日本3名、マラウイ5名
5月23日	実施校：長野県諏訪市立城南小学校、マラウイ・ムジンバ県カプタ小学校 参加生徒数：日本24名、マラウイ6名
7月19日	実施校：山口県山口市立柚野木小学校、マラウイ・ムジンバ県カプタ小学校 参加生徒数：日本3名、マラウイ3名
10月6日	実施校：山口県山口市立德地中学校、マラウイ・ムジンバ県の小中学生 参加生徒数：日本105名、マラウイ15名
10月12日	実施校：山口県山口市立大内中学校、ネパール・カトマンズ市サンスカール小学校 参加生徒数：日本14名、ネパール10名
11月7日	実施校：長野県諏訪市立城南小学校、マラウイ・ムジンバ県ムジンバ小学校 参加生徒数：日本35名、マラウイ10名
11月9日	実施校：山口県周南市立富田中学校、マラウイ・ムジンバ県カプタ小学校 参加生徒数：日本30名、マラウイ6名
11月10日	実施校：山口県山口市立湯田小学校、ネパール・カトマンズ市サンスカール小学校 参加生徒数：日本21名、ネパール6名
11月14日	実施校：山口県桜ヶ丘高等学校、マラウイ・ムジンバ県カゼンゴ小学校 参加生徒数：日本25名、マラウイ8名
11月25日	実施校：山口県周南市立富田中学校、マラウイ・ムジンバ県カプタ小学校 参加生徒数：日本30名、マラウイ6名
12月5日	実施校：山口県山口市立柚野木小学校、マラウイ・ムジンバ県カプタ小学校 参加生徒数：日本3名、マラウイ6名
2月1日	実施校：山口県周南市立富田中学校、マラウイ・ムジンバ県カプタ小学校 参加生徒数：日本30名、マラウイ6名
2月13日	実施校：山口県周南市立富田中学校、マラウイ・ムジンバ県カプタ小学校 参加生徒数：日本4名、マラウイ9名
2月16日	実施校：山口県山口市立湯田小学校、ネパール・カトマンズ市サンスカール小学校 参加生徒数：日本30名、ネパール6名
2月27日	実施校：山口県周南市立富田中学校、マラウイ・ムジンバ県カプタ小学校 参加生徒数：日本22名、マラウイ7名
3月3日	実施校：山口県周南市立富田中学校、ネパール・カトマンズ市サンスカール小学校 参加生徒数：日本15名、ネパール7名

■成果

- ・マラウイでのICT活用トレーニングを実施したことで、マラウイでDOTSを実施できる学校が増えた。
- ・それに伴ってDOTSの教育的価値がマラウイの教育関係者にも認知された。

・日本でも先生向けのセミナーを実施し、すでに DOTS を実施したことのある先輩先生の体験談を、これから取り組んでみたいと考えている先生に伝える場を提供。それによって、ICT の活用や英語コミュニケーションにハードルを感じていた先生たちの不安を払拭でき、新たな実践校が生まれた。

<2. ネパールにおける持続可能なコーヒー事業（クラウドファンディング）>

■概要

ネパールの山岳地帯において、高品質なコーヒー生産のサポートを行うことで、農家さんの経済力向上を目指すプロジェクト。コーヒーの栽培は、森林との共存を目指したアグロフォレストリーの考え方に基づき、人と地球の両方にとって持続可能な農業の実現を目指している。また、コーヒーの流通、販売のサポートも行うことで、継続的に雇用を創出できるような仕組みづくりに取り組んでいる。

■活動詳細

実施日程	詳細
4月～6月	・兵庫県尼崎市で開催されたササアドに出店し、サステナブルなライフスタイルに関心を持つ方々に向けて、ネパールでのコーヒー事業について紹介をした
7月～9月	・すで取引のある農家さん、新たにコーヒーの栽培を始めたい農家さんに対して、約37,500本のコーヒー苗の配布を行った ・現地パートナー会社で、ネパール国内のホテルやレストラン向けにコーヒーの卸販売がスタート
10月～12月	・ネパールコーヒーの品質向上、農家さんのサポートを目的に、目標金額100万円でクラウドファンディングを実施。結果、150万円を超える寄付と125名の支援者からの応援が集まった ・長野県諏訪市の城南小学校と連携し、フェアトレードに関する講演や学校祭でのコーヒーの販売体験などの実践学習を実施した
1月～3月	・日本での販売開始から1年が経過。オンラインストアでの1周年感謝キャンペーン企画を実施した ・現地パートナーや日本の輸入会社が生産地のトゥロポカラ村を訪問し、今季の収穫状況について確認し、今後の改善点などを農家さんと協議した ・日本での販売力強化に向けてブランドプロダクト事業が始動 ・徳島県上板町の高志小学校と連携し、講演、ネパールの農村出身者との交流、学校や地域のイベント等での販売体験などの実践学習を実施した

■成果

- ・今年度は新たにコーヒー栽培をスタートさせたいという地域の農家さんたちにコーヒーの苗を配布した。現地パートナーが中心となって、農家さんのニーズを聞き、植え付けの指導も行ったこと、あらたな生産地との関係性を築くことができた。
- ・より多くの農家さんの経済力向上に貢献できるよう、ネパール国内での販売も始動することができた。
- ・「支援ではなく、協力」というコンセプトに、クラウドファンディングを実施したことで、総額150万円以上の応援が寄せられただけでなく、ネパールコーヒーをいっしょに育てる仲間として、「村民」125名とつながりを持つことができた。
- ・日本でのさらなる販売量の拡大に向けて、京都でカフェ事業を展開する株式会社タビノネ代表の北辺氏に協力を仰ぎ、新ブランド創出に向けた協議を開始することができた。

<3. マラウイ農村部におけるサステナブルな衛生環境の向上支援事業（JICA 草の根支援型）>

■概要

医療施設から各家庭まで不衛生な環境状態が依然として続くマラウイにおいて、衛生面での知識、技術の移転を行う事業。現地医療機関や住民に対して、医療器具や飲料水の煮沸消毒等に関するセミナーを実施することで、衛生環境の向上を目指す。また、本事業では太陽光熱を利用してお湯を沸かす方法（ソーラーボイラー）を取り入れており、これは現地にあるもので再現可能な手法であるため、その方法を現地パートナーや病院担当者に対して、普及する活動も行っている。

■活動詳細

実施日程	詳細
4月～6月	<ul style="list-style-type: none">・5月に現地への渡航を行い業務に従事・2021年度に引き続き、現地病院やヘルスセンターで滅菌状況の調査を実施・第2四半期以降に実施予定の研修や知識テストの内容を、現地カウンターパートと協議・太陽光熱を活用するマニュアルの作成・ソーラーボイラーの現場での活用のための調査・検証を実施
7月～9月	<ul style="list-style-type: none">・現地カウンターパートの協力も仰ぎながら、太陽光熱の活用研修を実施・ムジンバ県マニャムラのヘルスセンターで衛生環境改善研修を実施・第1四半期の検証結果を元に、現地でソーラーボイラーの改良を行った
10月～12月	<ul style="list-style-type: none">・マニャムラ以外の村での煮沸消毒の導入に向けて、現地の衛生担当者も含めて、普及計画の協議、検討を行った・再度、太陽光熱研修を実施し、改良されたソーラーボイラーを用いて煮沸消毒の検証を実施・来年度に予定している本邦受入研修に向けて、現地カウンターパートと協議を行った
1月～3月	<ul style="list-style-type: none">・マニャムラでの実践例やカウンターパートとの協議内容を踏まえて、同じくムジンバ県にあるエディングニのヘルスセンターにて、太陽光熱を活用した煮沸消毒のデモンストレーションを実施した・エディングニヘルスセンターでは、衛生環境改善研修も実施した・マニャムラでは、モニタリング用のチェックシートを活用し、定期的な煮沸消毒が行われているかのフォローアップを行った

■成果

- ・現地での調査や検証の結果、ソーラーボイラーの現場での活用のための改善点を明らかにすることができ、現地向けにローカライズされた試作品も完成した。
- ・太陽光熱の活用研修を実施したことで、現地病院やヘルスセンターでは、自主的に煮沸消毒が行われるようになった。
- ・現場での調査、検証を重ね、カウンターパートとの協議も密に行ったことで、今後の普及計画や効果的な本邦研修の方向性をより明確にすることができた。

<4. 妊産婦健診と離乳食の強化を通じた家族全体の栄養改善プロジェクト（AIN）>

■概要

マラウイ・ムジンバ県の病院やヘルスセンターにおいて、妊婦健診における離乳食の調理サポートを通じて、妊娠期から母乳期の母親の栄養改善、及び離乳期の子どもの栄養改善を目的とするプロジェク

ト。子ども向けの離乳食は、各家庭で朝食として大人も食べていることから、栄養バランスのよい離乳食の普及を実現することで、家族全体の栄養改善を目指す。

■活動詳細

実施日程	詳細
4月～6月	<ul style="list-style-type: none"> ・現地カウンターパートに対してプロジェクト概要を説明し、渡航スケジュールの調整や関係者への連絡を行った ・5月には、マラウイへ渡航し、ムジンバ県保健局、栄養委員会にてプロジェクト概要の説明を実施 ・プロジェクトの活動対象となるマニャムラヘルスセンターでも、現場の医師、看護師、薬剤師、保健ワーカー向けに概要説明と栄養知識評価のプレテストを実施 ・6月には月1回のペースで、ヘルスセンタースタッフと妊産婦に対して調理実習を開始
7月～9月	<ul style="list-style-type: none"> ・プレテストを元に、同地域での栄養改善活動に精通したNPO法人ISAPHと、今後の栄養知識評価ベースライン調査の実施方法や質問項目について協議 ・調査内容や方法をムジンバ県保健局にも説明し、調査許可を取得 ・9月上旬には妊婦向けにプレテストを実施し、結果を踏まえて質問内容の再修正を行った後、本調査を開始した
10月～12月	<ul style="list-style-type: none"> ・9月までのプレテストや競技を踏まえて、低体重児の割合を測定するために、ベースライン調査を開始した ・ベースライン調査で得た調査データの分析を行い、現地関係者への共有も行った ・調査結果を元に、妊産婦の栄養状態改善に向けた指導内容について、カウンターパートと協議を開始した
1月～3月	<ul style="list-style-type: none"> ・指導内容を決定し、まずはヘルスセンタースタッフへの栄養知識指導を開始した ・ヘルスセンタースタッフから住民に対して栄養知識指導を行う計画の策定、住民がSNSや動画を用いて知識学習ができるようなコンテンツ制作の計画作成を行った

■成果

- ・これまでの活動によってすでに関係性を築いていた、保健局衛生局長や保健省担当者へのプロジェクト概要の説明を初めに実施したことで、現場での説明や調査をスムーズに進めることができた。
- ・事前のプレテストを丁寧に実施したこと、同活動地域でのベースライン調査に関して知見を持ったNPO団体の協力を得ながら調査設計を進めたことで、本調査を効果的に開始することができた。
- ・プロジェクト開始前に、ヘルスセンターだけでなくコミュニティへの指導も進める、という点で、マラウイ政府と合意が取れていたことで、プレテストや調理実習の段階から、コミュニティ全体を巻き込んだ形で活動を進めることができた。

(2) スタディプログラム事業

<1. ICTを活用した学校保健環境の向上に関する実証調査>

■概要

保健委員や学校組織運営に関する日本型教育の知見を活用して、マラウイの学校保健環境の向上に取り組む事業。マラウイにおける学校保健やICT分野の設備環境、教員の意識や取り組みの実態調査を行い、その後、調査を踏まえて、現地の学校保健環境の向上に向けた実証活動に取り組む。その際、日本とマラウイの学校同士がICTを活用した交流を通して互いに学び合う機会を作ることで、with/post コロナにおける国際交流活動のモデルとして、日本の教育現場の活性化にも貢献することを目指す。

■活動詳細

実施日程	詳細
6月～8月	<ul style="list-style-type: none">・本年度の活動計画を策定し、日本やマラウイで連携する行政や学校の先生との調整を実施した・学校現場でのICTを活用した生徒同士交流、ICT活用に関心のある先生向けのセミナーを開始・マラウイで保健衛生の活動に取り組む国際協力団体「NPO法人ISAPH」と協同で、外部向けに活動啓発のオンラインイベントを実施した
9月～11月	<ul style="list-style-type: none">・少しずつICT活用の実施校を広げながら、継続的に生徒同士の交流を開催した・マラウイの教員向けに、ICT活用に関するトレーニングを実施した・11月下旬から12月上旬にかけては、実際に現地への渡航も行い、現地学校で行われている委員会活動について調査を行った・渡航期間中には、現地の教育担当者とも綿密に協議を行った
12月～2月	<ul style="list-style-type: none">・生徒同士の交流、先生向けのセミナーは11月までと同様に継続開催した・今年度の活動のまとめを行い、それをもとに今後の保健衛生環境の向上に関する活動計画を現地カウンターパートと協議した

■成果

- ・マラウイ・ムジンバ県の公立学校に教師に対して、ICT活用に関する実態調査を実施した結果、PC等の基本操作からサポートする必要があることがわかった。また現段階では、生徒によるICT活用は難しい状況にあり、まずは教員へのICTトレーニングに重点を置く必要があることがわかった。
- ・調査内容を現地教育局にも共有することで連携体制を整え、述べ55名の教師へのICTトレーニングを全5回に渡って実施することができた。
- ・全8回のWeb交流を実施し、生徒主体の委員会活動について、日本の学校での活動内容やその意義を生徒自身が共有したことで、マラウイの学校での美化委員会の発足につながった。
- ・保健衛生に関する啓発活動について、現地教師と協議を実施したことで、全校集会の場で生徒主体の演劇によって、啓発活動を実践することにつながった。
- ・日本の先生を対象にした、オンライン交流に関するセミナーや国際協力団体との共同イベント、教育委員会や企業と連携したシンポジウムの実施など、多岐にわたる活動を実施したことで、広く日本の教育現場の活性化に貢献することができた。

<2. SDGs アクションプログラム、海外調査支援事業>

■概要

Colorbath が取り組む国際協力活動の拡大、外部向けの啓発と NTT コム エンジニアリング株式会社の社員のスキルアップを目的にした協働事業。ネパールやマラウイで直面している社会課題をテーマに、講演やワークショップ、社員による企画提案、また、実際の現地渡航などを行うことで、「SDGs」「途上国」「ソーシャルビジネス」といったテーマに対する普及啓発を行う。

■活動詳細

実施日程	詳細
4月～6月	<ul style="list-style-type: none">・オンライン交流プログラムDOTSの普及に向けて、先生が自立して交流を実施するためのアンバサダー制度の設計について、アイデア出し等を実施。Colorbath側から

	は講演を通して、教育現場の現状や課題を共有し、それらをもとに、グループワークを重ね、制度のモデル立案、8月に控えるシンポジウムの設計等を共同で行った。
7月～9月	<ul style="list-style-type: none"> ・「周南の子どもたちの未来を共に考える」と題して、山口県周南市にて、地域密着型のシンポジウムを協働開催した。シンポジウムには、NTTコム エンジニアリング社の社員12名が実際に山口県を訪問し、学校の先生や教育委員会、地域財団の方と意見を交わした。 ・2022年度前半の総括を行い、後半の現地での実践型研修に向けた振り返りを実施した。
10月～12月	<ul style="list-style-type: none"> ・第4四半期に控える、ネパール、マラウイでの現地調査、課題解決のためのビジネスモデル立案に向けて、現地情報の事前リサーチ、課題解決案のアイデア出しをグループごとに分かれて実施した。ビザの申請や海外旅行保険の加入、海外滞在で必要な持ち物の下調べなど、海外渡航経験の浅いメンバーも多かったため、現地でプロジェクトをすすめる上での基礎となる部分についても、実践型の研修を実施した。
1月～3月	<ul style="list-style-type: none"> ・2月18日～24日の日程で、NTTコム エンジニアリングの社員6名がネパールに渡航。ゴミ処理場やワイン工場などへの視察を行い、課題解決のためのビジネスモデル立案を目的とした実践型の研修を実施した。 ・3月22日～28日の日程で、NTTコム エンジニアリングの社員4名がマラウイに渡航。現地の小学校や教育局への視察を行い、教育課題解決のための事業立案を目的とした実践型の研修を実施した。

■成果

- ・8月のシンポジウムでは、実際にNTTコム エンジニアリング社員の方が現場の先生や地域の方の意見に触れたことで、より学校現場のリアルを理解してもらうことができた。
- ・前期、後期ともに、事前のリサーチや企画立案と現場での調査や体験をバランスよく体験してもらったことで、机上の空論で終わらない、地道な事業づくりについて体感してもらうことができた。
- ・現場での事業づくりをゼロから体感してもらうことによって、参加社員の主体性は向上し、本業への取り組みや会社に対する貢献度・自己効力感が向上していると感じる。

<3. オンラインイベント>

①ソーシャルキャンプ

■概要

ソーシャルキャンプとは、主に社会人に向けて開催した6週間の実践型スキルアップ研修プログラムである。学校の先生や新社会人、家事と仕事を両立する主婦の方まで、幅広い層の社会人の方が参加した。仕事上でのコミュニケーションや物事の捉え方、日常生活をより充実したものにするための考え方を学べるプログラム構成とした。複数回の講義と参加者同士のSNSグループ内での日々の実践共有を通して、実践しながら学びを得る機会を提供した。

■成果

- ・研修プログラムの初期段階で、参加者の心理的安全性を確保するための設計を丁寧に行ったことで、業種や境遇は違えど、似たような課題や悩み抱える参加者同士が、それぞれの実践や失敗談を赤裸々に共有し合う様子が見られた。
- ・6週間の期間の中で、SNSグループでの各自の実践共有だけでなく、定期的にオンラインでの交流の場も設けたことで、ソーシャルキャンプ修了後も、継続的に連絡を取り合うような関係性が生まれる結果となった。

② DOTS セミナー

■概要

DOTS セミナーとは、海外とのオンライン交流を自身の学校でも導入したい先生向けに、導入までの不安を解消してもらい、実際の導入につなげてもらうため、実施までのステップの説明や質疑応答をする無料セミナーである。2022年8月から月1回の頻度で開催し、新たな学校でのオンライン交流の実施に向けて取り組んだ。

■成果

- ・オンライン交流に興味は持ちつつも、交流の始め方や海外の方とのコミュニケーションに不安を感じていた先生の懸念事項をヒアリングし、疑問や不安を解消することができた。その結果、実際にDOTSセミナーに参加した先生がいる学校で、オンライン交流の実施にまでつながるケースが見られた。
- ・DOTSセミナーの中では、すでにColorbathとともに海外とのオンライン交流を学校で実践している先生にも、実施前と実施後の体験談をお話してもらった。それにより、まだオンライン交流を実践したことのない先生にとっては、より実際のイメージができるような機会にできた。また、登壇した先生にとっても、学びを共有することによって、改めてオンライン交流の目的や教育の本質を理解する機会にもなったという声が聞かれた。

③ 村民寄合（ネパール）

■概要

村民とは、2022年10月に実施したクラウドファンディングを機にスタートした、ネパールのコーヒー生産の課題や未来について、ともに考える支援者のコミュニティである。このコミュニティでは、支援者の方に現地の様子を共有しながら一緒に意見交換をすることで、「支援する側」と「支援される側」という関係性ではなく、村の未来を同じ目線で考えることを目的としている。「村民寄合」と題して、10月下旬から定期的に支援者（＝村民）同士のオンライン交流を開催した。

■成果

- ・成果として公開している情報だけでなく、現在取り組んでいる課題や今後のプロジェクト構想についても、村民の方々に共有することで、村民の方が主体的にオンライン交流の開催を打診してくれるといった動きが見られた。
- ・村民は、全国にメンバーがいるコミュニティである。中には、実際の住まいが近い方も所属しており、オンラインで交流したメンバー同士が、オフラインの場でも会うという様子も見られた。

④ その他イベント

日付	カテゴリー	詳細
6/17	NPO 法人 ISAPH さんとの コラボイベント	アフリカ・マラウイでの活動における知見共有の勉強会
7/9	NPO 法人 ISAPH さんとの コラボイベント	【NPO/NGO 最前線！】アフリカ・東南アジアでの草の根活動を徹底解剖
7/20	NPO 法人 ISAPH さんとの コラボイベント	【グータンヌーボ！】 JOCV からの草の根活動へ！キャリアと人生について語り尽くす！
8/8	NTT コム エンジニアリング	周南の子どもたちの未来を共に考える ー世界の学校とのオン

	株式会社さんとの共催イベント	ライン交流を通してー
11/4	NPO 法人 GOODEARTH の代表藤原さんとのインスタライブ	ネパールのコーヒー村での村民募集 (クラウドファンディング) をテーマに代表吉川が対談
11/30	団体の自主開催イベント	マラウイ・マニャムラからのオンラインバーチャルツアー
1/31	団体の自主開催イベント	第 1 回アンコンシャスバイアス大賞授賞式
3/15	団体の自主開催イベント	PUB 吉川「女性のキャリアと人生について」代表吉川主催の少人数制クローズドイベント

(3) 講演等

①

日時	4/19
場所	関西学院大学
参加者・人数	約 120 名
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・国際協力活動の取り組み紹介 ・挑戦することの大切さ

②

日時	6/9
場所	兵庫県立宝塚西高等学校
参加者・人数	生徒約 40 名
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・国際協力とビジネスの両立「スマートレクチャーコレクション」～英語のライティング教材の添削で、途上国の若手人材の雇用を作る～

③

日時	7/12
場所	兵庫県立御影高等学校
参加者・人数	生徒約 25 名
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・これからのキャリアとは ・これまでの人生と世界とのつながり (マラウイでの活動)

④

日時	9/22
場所	山口県周南市立富田中学校
参加者・人数	生徒約 30 名
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの人生と世界のつながり (マラウイでの活動) ・「はたらくこと」とは？

⑤

日時	9/28
場所	NTT コム エンジニアリング株式会社

参加者・人数	社員約 50 名
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・第 1 期 SDGs アクションプログラム（協働事業）の成果報告 ・ソーシャルビジネスの実践事例紹介（導入）

⑥

日時	10/11
場所	徳島県上板町立高志小学校
参加者・人数	生徒約 20 名
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ネパールという国についての紹介 ・「途上国」の捉え方

⑦

日時	10/18
場所	徳島県上板町立高志小学校
参加者・人数	生徒約 20 名
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ネパールでのコーヒー生産支援を通して学ぶフェアトレードの仕組み

⑧

日時	10/20
場所	長野県諏訪市立城南小学校
参加者・人数	生徒約 35 名
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ネパールでのコーヒー生産支援を通して学ぶフェアトレードの仕組み

⑨

日時	10/26
場所	NTT コム エンジニアリング株式会社
参加者・人数	社員約 50 名
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・社会課題との向き合い方、ビジネスの作り方 ・協働を進める上でのマインドセット

⑩

日時	11/7
場所	徳島県上板町立高志小学校
参加者・人数	生徒約 20 名
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ネパールの農家さんの暮らし、コーヒー栽培についての質疑応答

⑪

日時	11/18
場所	NTT コム エンジニアリング株式会社
参加者・人数	社員約 50 名
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルビジネスの実践事例紹介（つくり方）

	・事業づくりをする上で大切にしている3つのこと
--	-------------------------

⑫

日時	12/12
場所	兵庫県立御影高等学校
参加者・人数	生徒約25名
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな働き方にふれる ・デザイナーと考えるプロジェクトロゴづくり

⑬

日時	3/3
場所	宮崎県立高千穂高等学校
参加者・人数	生徒約30名
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・国際協力の事例紹介 ・これからの社会を生きていく上で大切なこと

⑭

日時	3/3
場所	山口県周南市立富田中学校
参加者・人数	生徒約200名
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・立志を迎えるにあたって ・これまでとこれからの人生の歩み方

(4) メディア掲載等

日付	媒体	内容
4/23	The Eight Peaks	ネパールコーヒー事業に関する活動報告会開催の様子がネパールメディアに掲載
9/1	月間先端教育	海外とのオンライン交流、教育活動に関するインタビュー記事が「月間先端教育10月号」に掲載
1/14	徳島新聞	徳島県高志小学校と連携して行った、ネパールコーヒーに関する総合学習の様子が、地元紙徳島新聞に掲載
1/29	NHK 徳島	徳島県高志小学校の生徒が、総合学習の一環で取り組んだ、徳島県内マルシェでのネパールコーヒー販売活動の様子が、NHK 徳島の特集として紹介
1/20	徳島新聞	徳島県高志小学校の生徒が、総合学習の一環で取り組んだ、徳島県内マルシェでのネパールコーヒー販売活動の様子が、地元紙徳島新聞に掲載
1/31	日刊工業新聞	ソーラーボイラーを協働している虹技株式会社(姫路)が、マラウイへ社員を派遣し、活動継続している様子について掲載
3/16	日刊新周南	「今日の人」として椎木のキャリアやマラウイでの活動、現在の山口で行っているオンライン交流「DOTS」について掲載

貸借対照表

令和 5年 3月31日 現在

特定非営利活動法人Colorbath

(単位： 円)

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
【流動資産】	12,471,582	【流動負債】	3,432,664
現金及び預金	6,253,302	役員借入金	295,494
売掛金	6,218,280	未払金	476,170
		未払法人税等	71,000
		前受金	2,590,000
		負債の部合計	3,432,664
		純 資 産 の 部	
		【株主資本】	9,038,918
		利益剰余金	9,038,918
		その他利益剰余金	9,038,918
		繰越利益剰余金	9,038,918
		純資産の部合計	9,038,918
資産の部合計	12,471,582	負債及び純資産合計	12,471,582

事業所名：特定非営利活動法人Colorbath

損益計算書

自令和4年4月1日 至令和5年3月31日

(単位：円)

勘定科目	<非収益事業>	<収益事業>	<合計>
[売上高]			
売上高	0	19,232,338	19,232,338
補助金収入	5,132,000	0	5,132,000
寄付金収入	1,279,160	0	1,279,160
売上高合計	6,411,160	19,232,338	25,643,498
[売上原価]			
期首商品棚卸高	0	0	0
仕入高	0	105,786	105,786
当期商品仕入高	0	105,786	105,786
合計	0	105,786	105,786
期末商品棚卸高	0	0	0
売上原価	0	105,786	105,786
売上総損益金額	6,411,160	19,126,552	25,537,712
[販売管理費]			
福利厚生費	4,875	159,093	163,968
採用教育費	30,228	90,680	120,908
外注費	2,316,575	9,063,222	11,379,797
荷造運賃	3,410	63,530	66,940
広告宣伝費	0	7,572	7,572
交際費	69,829	223,650	293,479
会議費	157,075	755,442	912,517
旅費交通費	375,445	6,633,872	7,009,317
通信費	28,393	85,172	113,565
販売手数料	0	76,956	76,956
消耗品費	100,636	629,759	730,395
諸会費	3,750	11,250	15,000
支払手数料	100,392	464,362	564,754
車両費	108,596	114,540	223,136
地代家賃	102,470	307,390	409,860
リース料	0	39,949	39,949
保険料	1,495	56,115	57,610
租税公課	1,700	5,100	6,800
寄付金	1,086,136	0	1,086,136
雑費	26,209	147,967	174,176
販売管理費計	4,517,214	18,935,621	23,452,835
営業損益金額	1,893,946	190,931	2,084,877
[営業外収益]			
受取利息	62	0	62
雑収入	1,370	4,110	5,480
営業外収益合計	1,432	4,110	5,542
[営業外費用]			
営業外費用合計	0	0	0
経常損益金額	1,895,378	195,041	2,090,419
[特別利益]			
特別利益合計	0	0	0
[特別損失]			
特別損失合計	0	0	0
[当期純損益]			
税引前当期純損益金額	1,895,378	195,041	2,090,419
法人税、住民税及び事業税	4	71,000	71,004
当期純損益金額	1,895,374	124,041	2,019,415

2022年度 活動計算書
2022年4月1日から2023年3月31日まで

特定非営利活動法人Colorbath
(単位:円)

科 目	特定非営利活動に 係る事業	その他の事業	合計
I 経常収益			
1 受取会費			
正会員受取会費	0	0	
賛助会員受取会費	0	0	
受取会費計	0	0	
2 受取寄附金			
受取寄附金	1,279,160	0	1,279,160
受取寄付金計	1,279,160	0	1,279,160
3 受取助成金等			
受取助成金	5,132,000	0	5,132,000
受取助成金等計	5,132,000	0	5,132,000
4 事業収益			
国際交流事業	0	5,499,000	5,499,000
スタディプログラム事業	0	13,733,338	13,733,338
事業収益計	0	19,232,338	19,232,338
5 その他収益			
雑収入	1,370	4,110	5,480
受取利息	62	0	62
その他収益計	1,432	4,110	5,542
経常収益計	6,412,592	19,236,448	25,649,040
II 経常費用			
1 事業費			
(1)人件費			
給料手当	0	0	0
福利厚生費	0	0	0
人件費計	0	0	0
(2)その他経費			
仕入高	0	105,786	105,786
旅費交通費	375,445	6,633,872	7,009,317
接待交際費	69,829	223,650	293,479
消耗品費	100,636	629,759	730,395
新聞図書費	0	0	0
荷造運賃	3,410	63,530	66,940
寄付金	1,086,136	0	1,086,136
広告宣伝費	0	7,572	7,572
外注費	2,316,575	9,063,222	11,379,797
会議費	157,075	755,442	912,517
雑費	134,805	379,412	514,217
減価償却費	0	0	0
その他経費計	4,243,911	17,862,245	22,106,156
事業費計	4,243,911	17,862,245	22,106,156
2 管理費			
(1)人件費			
役員報酬	0	0	0
給料手当	0	0	0
福利厚生費	4,875	159,093	163,968
人件費計	4,875	159,093	163,968
(2)その他経費			
租税公課	1,700	5,100	6,800
水道光熱費	0	0	0
通信運搬費	28,393	85,172	113,565
採用教育費	30,228	90,680	120,908
諸会費	3,750	11,250	15,000
支払手数料	100,392	464,362	564,754
保険料	1,495	56,115	57,610
賃借料	102,470	307,390	409,860
減価償却費	0	0	0
その他経費計	268,428	1,020,069	1,288,497
管理費計	273,303	1,179,162	1,452,465
経常費用計	4,517,214	19,041,407	23,558,621
当期経常増減額	1,895,378	195,041	2,090,419
III 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
IV 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
法人税等	4	71,000	71,004
当期収支差額	1,895,374	124,041	2,019,415
前期繰越正味財産額			7,019,503
次期繰越正味財産額			9,038,918